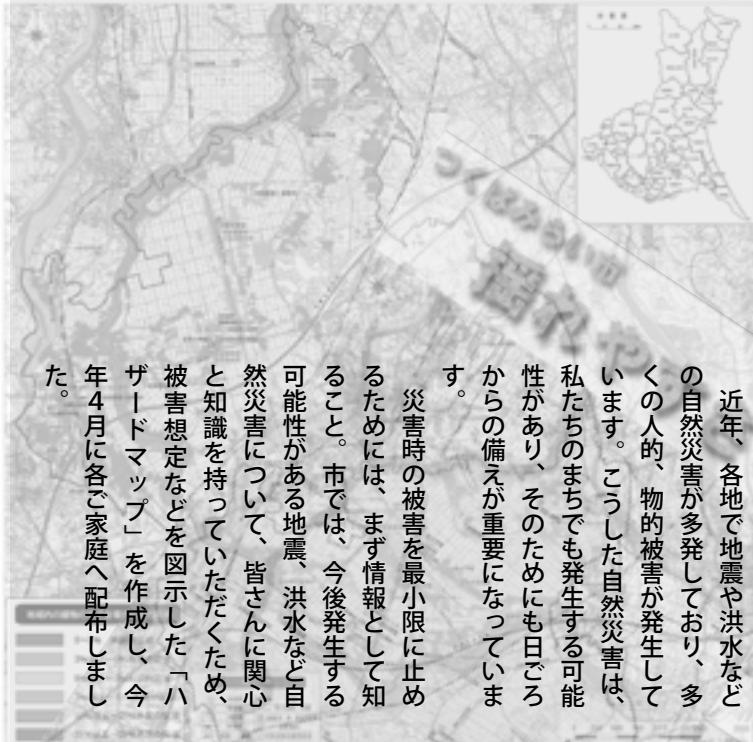


地域の危険度マップ



防災グッズの用意を

非常持出品

最低限の品をコンパクトにまとめ、すぐに取り出せる場所に保管しましょう。

①懐中電灯：できれば1人1つを用意。予備の電池も忘れずに。

②携帯ラジオ：AMとFM両方が聞けるものを。

③非常食：カンパンや缶切り不要の缶詰など、そのまま食べられるものを。

④救急医療品：傷薬、解熱剤、風邪薬、目薬など

非常備蓄品

少なくとも、3日間は自分たちで生活できるように準備しておきましょう。

応急手当のしかた

●準備しておくもの：水、非常食、毛布、洗面用具、ラップ、食器類、使い捨てカイロ、ロープ

●準備しておくもの：水、非常食、マスク、トイレットペーパー、簡易トイレ、予備の眼鏡、ドライシャンプーなど

ひどい出血には

①清潔なガーゼやハンカチで傷口を直接圧迫する。

②傷口を心臓より高くする。

③①で血が止まらない場合は止血帯を巻く。傷口より心臓に

近い部分をタオルなどで固く結ぶ。

骨折の疑いがあつたら

①不自然な変形や腫れや痛みがないか部位を確認する。

やけどしたら

②患部を固定する。板や傘などを添え木として部位にあて、骨折した部位の上下の関節を固定する。

①素早く冷水で冷やす。

②衣服を着ているときはそのまま冷やし、水をかけながら注意して脱がす。

③清潔なガーゼなどをあて医療機関へ。

④水疱(水ぶくれ)はつぶさない。

知ることが備えへの第一歩

洪水に対する備え 鬼怒川・小貝川 洪水ハザードマップ

近年、各地で地震や洪水などの自然災害が多発しており、多くの人的、物的被害が発生しています。こうした自然災害は、私たちのまちでも発生する可能性があります。そのためにも日ごろからの備えが重要になってきます。

洪水ハザードマップは、100年に1回ほどの確率で起こる大雨により、鬼怒川・小貝川が氾濫(はんらん)(あふれる)した場合を想定した「鬼怒川・小貝川浸水想定区域図」(国土交通省公表)に基づいて作成されたもので、浸水想定区域(水に浸かる範囲)と浸水深を表したものです。

地震に対する備え 揺れやすさマップ

「揺れやすさマップ」とは、地形や地盤の状況をモデル化し、

ハザードマップで 事前の準備を

想定される震源との位置関係とあわせて、地点ごとの震度を計算した結果を表したものです。自宅周辺や普段からよく行くところ、よく通るところなどについて、想定される揺れの大きさを確認してください。

また、地震に備えて自宅の財などの転倒対策を行ったり、災害時の避難場所や地震が発生した時の対応などを家庭や周辺の方と相談してください。

地震に対する備え 地域の危険度マップ

「危険度マップ」とは、「揺れやすさマップ」に示されている想定地震の揺れの強さになった

場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表したものです。危険度の数値が大きくなるほど被害が大きくなります。自宅周辺や普段からよく行くところ、よく通るところなどについて、安全性を確認してください。

詳しくお知りになりたい場合は、「防災・洪水ハザードマップ」については、伊奈庁舎総務課(内線1212~1215)、「揺れやすさマップ」「地域の危険度マップ」については、谷和原庁舎都市計画課(内線8161~8164)までお問い合わせください。